

連載

71 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (65歳・内科)

ヘルパーさんは
訪問時、突然仏様になられていた
在宅患者さんの姿に驚く。



7~8年前のことです。患者さんのAさん(80歳代前半の男性で脳梗塞後遺症・高血圧症)が、病状急変となり、至急の往診依頼がありました。

ご自宅に到着してみると、Aさんはベッドや他の部屋にはいなく、バスタブで入浴中の格好で仏様となられていました。そこにはヘルパーさんがいましたが、たいそう驚いたようで、気が動転している様子が見て取れました。

私がAさんを最後に診察したのは

3日前のことでしたので、至急警察に連絡しました。その結果、事件性はなく急性心筋梗塞の病名で死亡診断書を作成することができたのです。実況見分を含め、約3時間ほどの長時間を費やしていました。

今まで、私どもが訪問時に患者さんが天国に召されていたのを発見した事例は過去に5件あります。今後、少子高齢化社会到来とともに、多死の時代となってくるのでしょうか。

日本は法治国家ですので、人の最期には死亡診断書作成が必要となります。

24時間以内に医師が診察していれば、医師のみで死亡診断書を作成することが可能なのですが、診察から24時間を過ぎていた場合は、警察に連絡しなくてはなりません。

しかし、あまりにこのような事例が多くなってきているせいでしょう、厚生労働省より全国の医療機関に次のような通達がありました。

「ただし、通常かかりつけ医の診察している病名が、その死亡原因関連であり、事件性もないと判断した場合は、24時間以上経過していても、警察への連絡は必要なし」といった内容でした。

「お医者さんが来てくれる」

24時間・365日態勢で対応(松山市全域)

私たちは質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 20名

(常勤6名、非常勤14名)

内科・外科専門医 17名

(国立がんセンター勤務歴有3名)

精神科専門医 2名

麻酔科専門医 1名

(ペインクリニック科)

末期がん治療(緩和ケア)相談室開設!

Hyper Blood Viscosity(高血液粘度群)を科学する
臨床生命科学(体質・病態学、栄養学)研究所開設

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>